

2013.12.8 「弟子の足を洗う」 ヨハネによる福音書13:1～11

当時「洗足」は、奴隷、女、子どもの仕事であった。しかしここで、イエスご自身が弟子の足を一人ずつ洗うという行為に出た。何故、キリストが弟子の足を洗ったのか？ いよいよ十字架へと向うことを悟ったイエスは、世にいる弟子たちを愛し抜かれていることを示す形として「洗足」を行った。

もう一つは、「仕える」ことの「模範を示したのである」(13:15)。弟子の間では、ひそかに誰が弟子の中で一番偉いか議論が起きていた。人間にはそういう弱さがある。少しでも自分が人よりも上に立ちたいと思うところがある。イエスは、弟子たちの「誰が一番偉いか」という思いを悟って「仕える」ことの「模範を示したのである」(13:15)。またルカ福音書には、「弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いか」という議論が起き…イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」(9:46)。イエスは自ら、この世で最も小さい者になることを示しておられる。この世の最も小さいものに目を向けることを怠るな！というメッセージでもあろう。

この聖書の教えに対して、この世はどうか。この日本の政治はどうか。余りにも露骨に弱者を切り捨てる方向へと向うものでしかない。昨日「特定秘密保護法」が強行採決された。十分に議論することなく採決を取るのには、民主主義国家のすることではない。この法律は、国家のためにあるもので国民のものではまったくない。国家の姿勢に対して、抗議しようものなら国家反逆罪に仕向けられ、またテロ扱いされて処罰されることもあるといわれている。戦前に行われた特高警察、憲兵がのさばる暗黒の時代に逆戻りするかのような法律である。

聖書は、人の上に立つということは、仕えることを忘れてはいけないと教えている。イエスは自ら、この世で最も小さい者になることを示しておられ、この世の最も小さくされたものに目を向けることを怠るなと教えている。イエスの「洗足」の行為は、この世の動向とは真逆であるが、しかし、この世で生きる私たちキリスト者は、イエスのメッセージをしっかりと受け止めておきたい。(神谷)